

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 23 号 (11 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

1年生大会 モンテユースに完敗も…

11月23日(水)地区1年生大会の準決勝・決勝が山形中央Gにて行われました。山東は1年生大会第1ラウンドにて山工と山南を破り、久々の上位進出。顧問今野は赴任6年目にして1年生大会初勝利。第1ラウンド後、練習にて1年生と2年生チームに分かれてゲームをすることが多く、例年以上に1年生としての結束を固めてきた。相手はモンテユース。昨年度優勝チームにして今年度も優勝候補最右翼。さあ、戦うぞ、と気合を入れて当日を迎えたいところでしたが、実は試合前々日にこんなことが。天候不良が予想され、「顧問の首脳陣」のなかで、(上位大会のない大会なので)中止も含め日程の検討がなされていました。その報告を受けていたので、選手に「もしかしたら明後日の大会は中止になるかもしれない」と連絡。当惑気味の選手にさらに「そうなったら4チームすべて優勝だ」と伝えました。すると、言葉にしないまでも、1年生の中に「その手があったか、ぜひ中止の方向でお願いします」という喜びの表情が見受けられる。オイオイ、モンテとぜひ試合したい、そして勝ちたい、という気持ちをなぜ持たないのか! と一喝したくなりました。ただ、彼我の実力差を考えると、そういう気持ちが芽生えるのも分からないでもないですけどね。

さて、濡れたピッチながらボールは普通に転がるコンディション。試合が始まると、やはりモンテペース。どこまで粘れるか、と楽しみに見ていると、前半2分、ボールをめぐり山東のDFとボランチが交錯。こぼれたボールをモンテの選手に難なく決められ、早すぎるくだらない失点を献上。**大きな声でコミュニケーションを取る、後方の選手がリーダーシップを取ってプレーする、という当たり前の原則**を無視したプレーにより、早くも苦しい状況に。ベンチでは顧問が「くだらない、くだらなさすぎる」とぼやくも、所詮その程度までしか指導しきれていないと言われれば、まったくもってその通りとしか言いようがない。その後も、粘りのないディフェンスの対応により立て続けに失点し、前半15分で0-4。**これまでのサッカー歴において、どれだけ1対1の勝負にこだわりを持ってきたか、という意識の差、そしてその差に基づく練習(における工夫)の差が、両チーム間に横たわっている**。しかし、4点入れられて山東が吹っ切れたか、モンテが緩んだか、分かりませんが、突如として山東のボールがつながり始め、モンテサイドのピッチの攻防が続く。すると、誰かのシュートがモンテゴールを襲い、バーに当たって跳ね返ったボールがリクの前に転がってくる。GKは前のシュートへの対応で体勢が崩れているため、後はバウンドしているボールを頭で押し込むだけ。あ〜入った(これは決めてくれるだろう)、と思って見ていると、なんとなぜか上の方にヘディングされ

たボールは再びバーに当たり、再度跳ね返ったボールはクリアされてしまう。またもや顧問は「くだらない」を連呼。試合後、リクに「あれはないだろう（あれは決めなきゃいけないだろう）」と問いかけると、「入った（ゴールインした）と思ったんでボールを取りに行ったんです」との応え。啞然……。しかし！ **そのクリアで得た CK をコテッチャンがヘディングかなにかで決め、1-4に¹**。ピッチ内の波が30分の中でこんなにも変わる当たり、やはり1年生の大会であることを感じさせる。スコアはそのままで、前半を1-4で終える。

少しずつ山東の時間もできてきたし、後半は前半よりも良い戦いができるかな〜と期待をもって後半開始のホイッスルを聞く。しかし、実力的に相当下のチームに1点与えた前半の「不出来」に対して、喝を入れられた影響か、開始直後からモンテの猛攻が始まる。すると、再び開始直後に失点し、1-5に。後半盛り返す勢いを早々に殺がれてしまう。結局、その後3失点し合計8失点。**実力差をスコアの差にしない粘り強い戦いがこれまでの山東の真骨頂だったのですが、2年生チームも含め、残念ながらこの伝統が失われつつあるようです**。練習から1対1の勝負²にこだわって行かないと、県のトップのチームと比べ戦力的に劣っている山東にとって厳しいことが改めて分かりました。ただ、後半、**リクがドリブルから左足で1点奪い、最終的なスコアは2-8でした**。その後、モンテユースは、山形中央との決勝戦を0-0からのPK合戦にて破り優勝を果たしました。

その後、同日、市内の某焼肉レストランにて1年生の保護者の方々が選手慰労の会を開いて下さいました。そこで、あるお父さんから、**モンテユースから唯一得点を奪ったのが山形東である**ことを聞きました。ん〜確かに！ 8失点もしているので、最初にしなればいけないのは反省でしようが、2得点したことには素直に喜びたいと思いました。慰労の会は、選手一人ひとりと保護者一人ひとりの発言の機会があり、選手だけでなく保護者間のチームワークを高めるためにも、とても良い場であると感じました³。保護者の皆さま、ありがとうございました。

これにて、今シーズンの公式戦は終了。昨年、一昨年は、冬の東北新人大会に出場しましたので、冬の期間をモチベーション高く過ごすことができました。今年はどうなるのでしょうか？ **モチベーションを高める／保つイベントがない中、意識の高さが本当に問われる冬になることでしょう。選手の頑張りに期待します**。

¹ ベンチはモンテ側のゴールから遠かったので、コテッチャンが GK ごとボールをゴール内に入れた、コテッチャンが得意技？の「押し出し」を決めたと見えました。GK がボールを後逸し、それを押しこんだ、というのが正確な記述かと思います。

² 1対1の対人の練習だけでなく、複数人でのゲーム形式の練習にても、1対1のこだわりは重要です。自分が引き受けたマークの選手に絶対負けたくないという気持ちをもってこだわってやっているのと、抜かれても何してもチームで守ってるんだから自分のせいではないという人任せの発想で練習しているのでは、守備能力の伸びが全く変わってきます。すべてはこだわるからこそ工夫が生まれ、技量が向上するわけで、してやられたときに悔しそうにしていない選手はまず伸びません。

³ お世辞ではなく言うのですが、保護者の方と呑むと、決まって山形東サッカーOB会 HP の素晴らしさ、作成・管理している後藤報道局長への賛辞・感謝の話になります。報道局長は23日も1年生大会の取材に見えられましたが、そればかりではなく、午後から行われた城北との練習試合にも駆け付けてくださいました。本当に頭が下がります。

今年度のサッカー一部納会日程

サッカー部OB会主催の納会の日程が決まりました（3年生諸君、よろしいかね）。
12月22日（木）の予定です。例年と比べやや遅めの日程なので、センター演習の真ただ中であり勉強の支障となることを心配する3年生もいるかもしれませんが、納会に備え、計画的に勉強しなさい。この納会は、OB会が現役諸君にすき焼きをふるまってくれる太っ腹な恒例行事です。なかじま商店にての開催が恒例となっております。すき焼きを頬張りながら、今年1年を振り返ります。見どころとしては、特別のトロフィーが授与される5名の優秀選手の発表。今年は誰になるのか、乞うご期待です！